

公募テーマ	背景	目的
<ul style="list-style-type: none"> ■ HER2超低発現診断に関する教育活動 	<p>HER2超低発現という新たなカテゴリーでの診断が開始される中、判定ガイドでは十分にカバーされていない判定時の読影ポイントが存在しています。</p> <p>また、HER2病理診断ガイドラインにおいてもHER2超低発現に関する詳細な判定条件が今後アップデートされる予定です。</p>	<p>本教育活動を通じて、病理医/臨床医へHER2超低発現の適正診断の定義や診断のポイントが浸透することにより、適切な患者に適切な治療を届けることが期待されます。</p>

公募テーマ	背景	目的
<ul style="list-style-type: none"> ■ 免疫染色を用いた胃がんのバイオマーカー診断の普及に関する教育活動 ■ 適切な検体の取り扱い方法の普及に関する教育活動 	<p>病理診断において、免疫染色は簡便かつ迅速に分子マーカーが評価でき、臨床現場での治療法選択等の意思決定に不可欠となっています。</p> <p>一方、施設間での染色技術や判定基準のばらつき、病理診断医の知識・経験の差、および検体の取り扱い基準の違いに起因し、診断の精度や一貫性に課題が残されています。</p>	<p>教育活動を通じて、治療選択の精度向上と患者予後の改善への貢献が期待されます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 医療関係者あるいは患者さんに対する最新の薬物療法／ガイドラインに関する教育活動 	<p>胃がん治療薬は、新規薬剤の登場により、薬物療法の選択肢が大きく広がっています。また、国内外のガイドラインも頻繁に改訂され、治療アルゴリズムや推奨事項が更新されています。</p> <p>一方、医療関係者にとっては、これらの最新情報を日常診療に迅速かつ的確に反映させることが容易ではなく、情報の格差や理解のばらつきが課題となっています。さらに、患者さん自身も治療選択に関与する機会が増えている中で、正確な情報提供と意思決定への支援が求められています。</p>	<p>本教育活動では、医療関係者に対して、最新のエビデンスに基づいた治療選択、薬剤の適正使用、ガイドラインの活用方法などの体系的な教育を通じて、診療の標準化と質の向上が期待されます。</p> <p>患者さんに対しては、治療の選択肢や副作用管理、治療の目的などについての理解を深める機会を提供することで、納得感のある治療選択とアドヒアランスの向上が期待できます。</p>

公募テーマ	背景	目的
<ul style="list-style-type: none"> 医療関係者または患者さんを対象とした包括的がん遺伝子パネル検査の適切な運用・普及活動に関する教育活動 	<p>がんの個別化医療が進展する中で、包括的がん遺伝子パネル検査（以下、CGP検査）は、治療選択肢の拡大や臨床試験へのアクセスを可能にする重要な検査となっています。一方、CGP検査の運用には、検査のタイミング、結果の解釈、エキスパートパネルによる評価など、多くの専門的知識と体制が必要とされています。</p>	<p>教育活動を通じて、包括的がん遺伝子パネル検査の適切な運用と普及を促進し、がんゲノム医療の質と実効性を高めることにあります。医師、看護師、臨床検査技師、認定遺伝カウンセラー、および医療コーディネーターなどの医療関係者に対して、CGP検査の基本的な知識、運用上の留意点、結果の臨床的解釈、患者さんへの説明方法などを体系的に教育することで、検査の適正な実施とがんゲノム医療の均てん化に貢献することが期待されます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 医療関係者あるいは患者さんに対する最新の薬物療法及びガイドラインに関する教育活動 薬剤師、看護師に対する抗がん剤による副作用マネジメントに関する教育活動 	<p>標記のがん領域では、近年の薬物療法の進化により、新規治療選択肢が登場しており、医療関係者は常に最新の知識を把握し、臨床に応用していく必要があります。一方で、抗がん剤治療に伴う副作用は依然として患者さんのQOLや治療継続に大きな影響を与えており、薬剤師や看護師による副作用マネジメントの重要性が高まっています。また、患者さん自身が治療選択に関与する機会が増えている中で、正確でわかりやすい情報提供と意思決定支援も求められています。</p>	<p>本教育活動は、標記がん領域において、医療関係者および患者さんに対して最新の薬物療法と診療ガイドラインに関する知識を提供するとともに、薬剤師・看護師に対して抗がん剤による副作用マネジメントの実践的スキルを強化することを目的とします。上記により、治療の標準化と均てん化を促進し、患者さんに対してより安全で納得感のある治療を提供できる体制の構築を支援します。また、チーム医療の中で各職種が果たす役割を明確にし、職種間連携の強化と医療の質向上に貢献します。</p>

公募テーマ	背景	目的
<ul style="list-style-type: none">■ 医療関係者あるいは患者さんを対象とした肺がんの最新情報、診療、包括的ゲノムプロファイリングに関する教育活動	<p>肺がん治療は急速に進化しており、新たな診断技術（デジタルパソロジー）や新薬開発など、医療関係者・患者さん共に、治療やShared Decision Makingなどにおいて考慮すべき知識が増加傾向にあります。</p> <p>また、肺がん治療は、様々な専門性を必要とするチーム医療であるため、最適な肺がん治療を実践するには、各専門性を備えるための教育活動が必要と考えられます。</p>	<p>医療関係者あるいは患者さんに、最新の肺がん治療に関する情報を学習する機会を創出することにより、最適な治療選択をサポートすることを目的とします。</p>

公募テーマ	背景	目的
<p>■ T細胞リンパ腫の病理診断、遺伝子パネル検査の有用性や個別化医療、エピジェネティック薬剤、支持療法（AEマネジメント等）およびリンパ腫患者さんを対象とした疾患啓発に関する教育活動</p>	<p>造血器腫瘍遺伝子パネル検査の臨床応用が開始され、今後、個別化医療の加速が見込まれているが、施設毎に捉え方は様々で、特にリンパ腫領域では実臨床における活用の可能性についてEducationニーズがあります。また、PTCLでは近年多くの薬剤が承認され、新規メカニズム薬剤のMOAや特徴的なAEに対するマネジメントなどにも関心が高まっています。</p> <p>一方、患者本人が疾患や治療法への理解を深めることは、納得して治療を受けるために極めて重要であり、疾患や治療について正しい理解を促進するとともに、臨床研究や治療意思決定への患者参画について教育機会の提供が求められています。</p>	<p>T細胞リンパ腫領域の最新情報に関する教育機会の支援と患者の疾患に関する知識向上への寄与を通じた治療の質の向上に貢献することを目的とします。</p>
<p>■ AML領域における初発患者の診断・検査、高齢患者に対する治療法、治療に伴う感染症マネジメント、移植後維持期の薬物相互作用に関する教育活動</p>	<p>新規分子標的薬や造血器腫瘍遺伝子パネル検査が臨床応用され、検査・診断・治療法が目覚ましく進歩し、次世代シーケンスをはじめとする新規検査手法とMRD等のエビデンスの蓄積に伴い、治療法の更なる発展が見込まれます。検査・診断から寛解導入療法、地固め療法、移植後フォローアップまでの各治療フェーズにおいて適切な治療につながる最新知見の習得やディスカッションの機会が求められています。</p>	<p>AML治療及び検査・薬剤選択・薬物相互作用・感染症マネジメント・移植後フォローアップ・MRD等に関する教育活動を通じて、将来の医療現場を担う若手血液内科医やチーム医療を支える各専門分野の医療関係者の知識向上を通して、患者さんに適切な治療が提供されることを目的とします。</p>

公募テーマ	背景	目的
<ul style="list-style-type: none">■ がんと複数疾患を併発する高齢患者のトータルケア向上に関する教育活動	<p>高齢がん患者には糖尿病や循環器疾患など複数疾患を同時に抱えるケースが多く、薬物療法を含めた治療の最適化が課題となっています。</p> <p>VEGF阻害薬に伴う高血圧や腎機能障害といった併発症状の対応が必要となる中、患者の生活背景を考慮した介入が十分とはいえない現状があり、高齢がん患者への総合的かつ柔軟なアセスメントの必要性が増しています。</p>	<p>がんと複数疾患を併発する高齢者の治療方針について5M's（Mind: 認知機能、Mobility: 身体機能、Medications: 薬剤管理、Multicomplexity: 複雑性、Matters Most: 患者の価値観）の視点を含めた包括的知識を普及し、診療科や専門領域を超えた多職種連携の強化、患者視点による治療の継続率と有害事象のコントロール精度を高めることを目的とします。</p>

公募テーマ	背景	目的
<ul style="list-style-type: none"> ■ 医療関係者を対象とした糖尿病性末梢神経障害性疼痛の評価の実施・活用と治療戦略の普及を促進する教育活動 ■ 医療関係者を対象としたがん又はがん治療による神経障害性疼痛の最新知見の習得と治療戦略の普及を促進する教育活動 ■ 患者さんを対象とした神経障害性疼痛の疾患理解と受診を促進する教育活動 	<p>神経障害性疼痛は多様な症状を呈し、慢性痛を伴うことが多く、適切な評価と治療が必要とされています。</p> <p>糖尿病性神経障害性疼痛は未診断例が多く、適切な評価ツールを用い、治療戦略を立てる必要があります。</p> <p>がん関連では腫瘍由来、または化学療法や手術によって神経障害性疼痛がしばしば発生しますが、がんの治療過程で適切に疼痛を管理する事でQOLは保たれます。</p> <p>整形外科領域では脊柱管狭窄・頸椎症・ヘルニア・手根管症候群など神経圧迫や絞扼によって神経障害性疼痛を発症する例が多く、治療薬の適切な選択には安全性・副作用への配慮が求められます。</p> <p>また、患者さんの疾患理解不足により慢性化するケースがあり、痛みの原因・症状・治療の重要性を理解し、早期受診や治療の支援が求められています。</p>	<p>神経障害性疼痛診療の普及・課題解決に繋がる医療関係者の知識向上・スキル習得・行動変革および患者さんの神経障害性疼痛の受診が促進されることが期待されます。</p>

公募テーマ	背景	目的
<p>■ 高血圧のクリニカルイナーシャ改善に向けた「高血圧管理・治療ガイドライン2025」を活用した最新の診断・治療に関する教育活動</p>	<p>高血圧の診断法と薬剤が進歩したものの、コントロール不十分な患者割合が依然として高いことが問題となっており、背景には服薬アドヒアランスの不良、生活習慣とともにクリニカルイナーシャが挙げられています。高血圧は自覚症状が少ないため、医師側が適時診断・評価し、最適な治療法を提案することが求められています。</p>	<p>「高血圧管理・治療ガイドライン2025」を活用した最新の診断・治療に関する教育活動を通じて、医療関係者の知識向上を目指し、患者さんに適切な治療が提供されることを目的とします。</p>